

第3回 e-learning コンテンツ作成 WG 議事録（確定）

日 時 : 令和5年8月23日(水) 10:00~11:15
形 式 : ハイブリット会議(現地+Zoom)
場 所 : 日本薬学会長井記念館 薬学教育協議会事務局(ホスト会場)
出席者 : 別記1
配布資料 : 別記2

1. 業者選定に係る公告、提案書、選定結果について(資料1-1~資料1-3)

資料1-1に基づき、事務局より見積公告について概略説明があった。続いて、資料1-2に基づき提案書提出があった(株)ホサカの資料の説明がなされ、資料1-3のとおり、(株)ホサカが仕様要件、運営実績、予算等々に対応した最適な導入者先であると特定したことの報告があり、了承された。

引き続き、特定された業者である(株)ホサカより過去に手掛けた e-learning システムの開発・構築のサンプルの提示があり、その概略について詳細な説明が行われた。

(株)ホサカによる主な説明内容について

作成できる事柄として①頁内に動画あるケース ②文字と合わせた動画 ③イラストを入れた動画 ④ナレーション(男性、女性)が可能 ⑤受講生の視聴記録可能 ⑥時間設定可能 ⑦スキップ禁止設定等々の紹介があった。

また、受講生がログイン後に受講した講義を選択したり、受講後に受講記録として修了証書を付与することも可能であること。画面サイズも自動的に変わり、スマホ等の視聴も可能であること。テストについては、①四択等の小テストとその合格基準 ②修得確認テスト ③動画ナレーションとイラスト付きページ内テスト ④講義項目毎の確認テスト等々を設定できること。また、今回は、10項目のタイトル毎に付帯する確認テストを想定していることの説明もなされた。

さらに、アカウントを発行した受講生全員が同じ内容を受講するのではなく、アカウント毎に受講内容を指定できること。受講者に URL、アカウント及びパスワードを配付することで当該受講者の用途に合致した講義を指定できること等についても説明があった。

終わりに、今回の(株)ホサカの提案内容を協議会の資料から纏めると、

○全体100頁以内となっているが、あるものは10頁、またあるものは5頁とすることは可能である。

○タイトル毎に20頁以内とされており、1タイトル20頁以上になると通常、飽きてしまい効果が薄れるようである。タイトル毎に最大20頁トータルで100頁以内と認識している。

○ナレーションは人間の声ではなくソフトウェアがあり発音も調整できるので、ご指定通りに挿入可能である。

○動画は1頁に2点を見ることは見切れないと認識している。各ページに1点ずつの動画を想定している。また、長い動画ではなく10分以内としている。

○形式としては今後の打合せで決めていくこととする。先生方が既に持っている動画、これから撮られる動画は、変換が可能な限り対応したいが今後の相談である。

○動画のロケーションや撮影については、今回の提案内容に含まれていない。

○教材の構成に AI やソフトウェアの提示があったため、アプリケーションの操作方法について、操作手順のナレーション動画を(株)ホサカで用意はできる。

等々の説明がなされた。

説明後の主な意見の提示

- ・データ管理がしやすいのではないかな。
- ・裏とはどういう意味かな。
- ・(株)ホサカの e-learning コンテンツ作成の売りは何か。また、効果的な手法は何か。
- ・サーバーは、(株)ホサカの物を使用し、ユーザー管理は協議会で行う。ログを見ることができるのは管理者（協議会）という考えでよろしいかな。
- ・ムードル上にコンテンツを置くことまでが、主な仕事と理解してよいかな。
- ・協議会がどこまでの管理者権限を渡すか、権限設定を行うということではよいかな。
- ・大学に管理者権限を付与すれば、大学側でユーザー管理が可能となるという理解でよいかな。
- ・現実的に協議会で全薬科大学のユーザー管理することは難しいだろう。
- ・協議会と大学で管理者権限があるユーザー管理ができる。ログが見られるということか。
- ・作ったものを大学がログインし、合格ラインをどこにするのかとか、早回しで見たり、見られないという設定は大学側で出来るのか。
- ・大学でどう使うか決まっていない。勝手に基準を変えられないようにすべきと考えるがどうか。
- ・大学での運用や使い方について、こちらから示す方がよろしいのではないかな。
- ・システムは理解できるが、運用面についてイメージできない。
- ・50,000 人の設定では 1 学年約 10,000 人いるので、5 年でオーバーフローする。運用できるか不安ではないかな。
- ・ユーザー数は①20,000 人②50,000 人の提示であった。アカウントの発行数や同時接続の人数を示していただきたい。
- ・薬学部 of 学生全員を対象と考えている。上限 20,000 はアカウントの発行数 20,000 人ということであれば心配であるがいかがかな。
- ・運用面が気になる。理解は深まったが、個別 of 学生の進捗管理機能までもこのシステムに持たせる必要があるのか。
- ・各大学が使っている LMS の中で視聴を確認するという運用で考える等、個別 of 学生の進捗管理をしなければ同時接続数も可能になるのではないかな。
- ・(株)ホサカで用意したサーバーにコンテンツが格納され、そこにアクセスするということが、各大学 of LMS に搭載させると仕様や契約の変更が必要になるのではないかな。

- ・最近の調査で、全国 79 薬科大学の LMS 使用状況がすごく多様であることが理解できた。 Moodle、ティームス、クラスルーム等のユーザーがかなりある。大学ごとに運用する方法では問題が生じるのではないだろうか。
- ・運用面では、大学のシステムによるところが多いのではないか。
- ・コンテンツを作る側として、文書や動画の転載ですが、著作権の問題はいかがか。
- ・一般的には、引用を示すことで著作権の回避は可能となるケースが多いが、このコンテンツも同様の理解と考えてよいか。
- ・運用をしっかり決めなければと改めて感じた。我々がどこまでどのように作るのか、実際の作業量や期間も限られている。いつまでにどう決めるのか不安である。
- ・何をどういう形で作り、それを渡して、(株)ホサカがどこまでやってくれるのかイメージできていない。これまでの実績でよいが、どういう形の受け渡しをしたのか知りたい。
- ・テキスト量は、それ程多くないと思うが、コンテンツ 1 頁にどれくらいのテキスト量で動画はどの位であれば視聴者側は見るとか等、ノウハウも含め提示いただきたい。
- ・コンテンツの利用規約、協議会側と各大学が使う利用規約、転載範囲等も必要となる。何か職域や会社を跨ぐような利用規約を作成したことはないか。提示いただきたい。
- ・各大学が使用するため、代表者による書面上の同意や誓約が必要なのではないだろうか。

各委員より発言いただいた後、(株)ホサカより各先生方よりいただいたご意見も踏まえ、キックオフミーティングを開催させていただきたい旨の提案依頼があり、これを了承した。

2. 文部科学省令和 5 年度薬学教育指導者のためのワークショップ事前アンケート結果について (資料 2) 及び 3. 全体発表・討論資料について (資料 3)

文部科学省より資料 2 に基づき、令和 5 年度薬学教育指導者のためのワークショップについて説明があった。8 月 4 日に全国薬科大学長薬学部長と薬学教育の指導的立場の先生方に、全ての薬学系大学からお集まりいただき、薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和 4 年度改訂版）に基づくカリキュラム実施に向けた課題と対応の検討・ご議論いただいたことの説明があった。

資料 2 は、ワークショップ実施に先立ち行ったアンケート結果で自由記載部分が沢山あり、資料 3-1、3-2 は、当日の総合討論での発表資料であるとの説明があった。

以上の内容を纏めた資料の提示がなされ、概要について説明がなされた。

木下委員長より、このワークショップには ICT サポートとして、木下委員長、酒井委員が参加しており、本間先生にはオブザーバーとして参加いただいている旨の補足説明があった。

続いて、情報・科学技術を活かす能力のことに限らず、各大学が非常に悩まれているという印象を受け、このワークショップの席上で情報・科学技術を活かす能力に関することについて、どうすればよいのか分からないというご意見が沢山あったことから、ワークショップのタスクフォー

スミューティングとその後の文部科学省等と相談の上、ワークショップの最後に薬学教育協議会において、情報・科学技術を活かす能力に関する e-learning コンテンツ作成を進めている現状であることを伝えた。なお、この段階では、具体的に何も決まっていないがコンテンツとプラットフォーム等に関して検討中であると報告したことの説明があった。

4. e-learning コンテンツ作成に向けた委員からのご意見(2023 年 8 月 20 日時点) (資料4)

木下委員長より資料4に基づき、第2回の委員会でコンテンツの項目の提示もなされたこともあり、委員の先生方からご意見をいただいたことの報告があった。なお、先生方との意見交換を引き続き進めていくところであるが、今後、具体的なロードマップの提示を受けコンテンツの内容を詰めていく方向であるとの発言があった。また、ご意見は Docs へどんどん自由に記載いただきたいと併せて発言があった。

5. コンテンツ作成のロードマップ(案)について(資料5)

木下委員長より資料5に基づき、前回のWGでロードマップ案を提示したが、スケジュールが厳しいことから、今回のWGに合わせて外部業者の選定をしたので、それ以降、コンテンツの検討を進めて1月にリリースということとし、前回提示したロードマップ案を変更したとの報告があった。内容としては、9月、10月に委員会があるが、進捗状況確認をしながら仮のリリース版を作成後に確認作業の上、1月リリースに向けて確認や修正を行い、最終確認後にリリースをすること。その後、文部科学省事業であることから、報告書作成の分担と報告書内容確認としたロードマップに修正した旨の説明があった。

(株)ホサカより本日先生方よりご提示いただいた意見を踏まえ、e-learning コンテンツ作成に向けてのスケジュール案を策定するので、提示後にフィックスいただきたい旨の依頼があった。

なお、資料5のロードマップ(案)については了承された。

別記 1 e-learning コンテンツ作成ワーキンググループ第 3 回 (8 月 23 日開催)

構成員氏名	所 属	出欠席	備 考 欄
木下 淳	兵庫医科大学薬学部臨床薬学分野	現地	
今井 志乃ぶ	昭和大学薬学部門薬剤疫学部門	Web	
近藤 悠希	熊本大学大学院薬学教育部臨床薬理学分野	Web	
酒井 隆全	名城大学薬学部医薬品情報学研究室	Web	
出口 芳春	帝京大学薬学部薬物動態学研究室	Web	
原口 亨	公益社団法人日本薬剤師会	欠席	
細谷 治	日本赤十字社医療センター薬剤部	現地	
松野 純男	近畿大学薬学部医療薬学科	Web	
本間 浩	一般社団法人薬学教育協議会	現地	
オブザーバー	文部科学省高等教育局医学教育課		
e-learning コンテンツ作成業者 ○株式会社ホサカ ○株式会社カビネット			

別記 2 e-learning コンテンツ作成ワーキンググループ第 3 回（8 月 23 日開催）

<配付資料>

資料 1－1 e-learning コンテンツ見積合わせ公告

資料 1－2 一社から提出のあった見積提案書について（取扱注意）

資料 1－3 見積合わせ公告の結果について

資料 2 文部科学省令和 5 年度薬学教育指導者のためのワークショップ
事前アンケート結果

資料 3－1 文部科学省令和 5 年度薬学教育指導者のためのワークショップ 全体発表
・ 討論資料（1 チーム）

資料 3－2 文部科学省令和 5 年度薬学教育指導者のためのワークショップ 全体発表
・ 討論資料（2 チーム）

資料 4 e-learning コンテンツ作成に向けた委員からのご意見（2023 年 8 月 20 日時点）

資料 5 コンテンツ作成のロードマップ（案）

追加資料 文部科学省令和 5 年度薬学教育指導者のためのワークショップ（報告）